



持続可能な社会の構築

特定非営利活動法人（NPO法人）
新潟県山野草をたずねる会・植生研究会

理事長 小日向 孝

（樹木博士・環境カウンセラー・環境教育インストラクター・花と緑のアドバイザー）

社会秩序や心の崩壊を思われる親殺し、子殺し、いじめ、登校拒否、自殺、凶悪行動等々日本社会は、どうもおかしいぞと指摘されている昨今です。物質的な豊かさと豊かな食生活の中にどっぷりと浸り、全てのものの命がつながりあって成立していることを忘れてしまっています。便利さと快樂を追い求め、履き違えられた自然と一体化した心と畏敬の念や耐える力の欠如を生み、ひいては、羨や基本的生活習慣の崩れ、更に、甘えと共に、自分本位の行動、自然体験不足等が背景にあると思います。自然環境の悪化と失われていく緑の自然、そして荒れる人々の心と様々な問題行動、自然を翻弄した人間の愚かな行為と荒れる人々の心を改めなければなりません。まさに環境破壊と心の崩壊は同根です。人類が、健全に存続し発展し続けられる持続可能な平和な社会の構築は、全ての生物の生活にとって良好な環境が基礎にあつてはじめて可能であり、今世纪最大の課題です。良好な環境とは、生物の生命の母体でいのちと心や未来を育む潜在自然植生が生育する地域本来の本物の緑豊かな環境です。

このことは、四大世界文明発祥地の『文明の前に心を育む豊かな森があつて、文明の後に砂漠（緑も人の心も）が残った』の歴史が物語つており、持続可能な社会づくりには環境保全といのちと心を育む教育の推進が不可欠です。

植物社会は静的でトラブルや摩擦も競争もないよう見えますが、人間社会に勝るとも劣らぬ厳しい生存競争、共存、我慢、すみわけ等の撃と生きる営みの中では社会が成立していく社会の持続を可能にしています。人間社会を持続可能にするには、植物社会に学ぶことが大切です。人間社会の一員として強く賢く逞しく生きていく人間の資質を高め生きる力を育てることが大切です。

当法人が、植物の生きざまに学ぶテーマに『健康で心豊かな潤いのある生活の追及』と『環境保全といのちと心を育む教育』を車の両輪に活動をしている

NPO法人
新潟県山野草をたずねる会・植生研究会機関紙
第21号
会員数156名(12/1現)
事務局
長岡市下条町1406-6
理事長 小日向 孝
TEL・FAX 23-1317
印刷
(有)佐藤印刷所
TEL 32-0681

ことは、持続可能な社会の構築の目的をとらえていると思います。The Conserve Native Forest Organization in Niigata

環境破壊が原因と思われる異常な気象現象や土砂崩れ等が見受けられます。有史以来人々が豊かな生活を求めた様々な行動で自然の安定回復能力に耐えきれず、自然が人々に怒りを表した自然を翻弄することへの警鐘です。天災は防ぐことはできませんが被害を最小限に防ぐことはできます。それは、自然の驚異を認識し、人間は自然の一員だという理解と認識でエゴを捨てた本物の緑環境の保全です。眞の共生者で地震にも火災にも強い潜在自然植生生育する命の森=ふるさとの森の環境をつくることです。自分の命は自分で守る姿勢と自分が生きていぐのに必要な酸素を放出してくれる樹木十五本を生やし、育て、植え、共に生きるという行動が大切です。

今、求められていることは持続的に豊かな経済活動を可能にする社会の構築と自然と共に生する命と心の教育です。

私たちは、掛け替えのない地球環境を確かなものとして未来に引き継ぐ責務があります。文化を創造しポテンシャルを残すふるさとの自然の回復と命と心を植え育て、地域や地球環境の保全、自然と調和するまちと人をつくる。癒しと安らぎ人々が永く健康で心豊かな潤いのある平和で幸福な生活が送れる持続可能な社会の構築を取り組んでいきました。



市環境フェア

9/23・24 参加

毎年開催されている市環境フェアに今年も参加しました。NPO活動展示・活動発表を行い大変好評でした。

「早春の山野草」をたずねて

田中 紀子

私は四月二日の総会に初めて参加させていただきました。どんな会かと興味津々でした。目的地の能生白山神社に着いた時は冷たい雨が降り、山路はドロドロで滑らないよう気を付けて登りました。あんなに海のすぐ近くの里山にカシ、シイ等の大木やトリカブトの群生等があり、自然の豊かさを感じました。そして地元の方々に依つて、自然が大切に守られていることにも感心いたしました。以前テレビで山の木々が健全だとそこに連なる川や海の魚が豊富であると報じていました。里山の木々を守ることは、子孫の為に今生きる人達の義務であると強く感じました。神社は歴史のある建物で丁度伝統ある「祭行事」の練習中でした。装束姿の可愛らしい小学生にも逢うことができ、来年は祭りを見に出掛けたいと思いました。帰りに石地の石部神社の裏山の雪割草の群生地も見せていただきました。私は日頃、弥彦山や鋸山等低い山に登り、登る度に咲いている季節の花を楽しんでいますが、少し見方が変わらかも知れません。初めてのボランティアに参加して、非力の自分に出来ることは何か?興味を持つことで少しづつ知識が広がり、この会の目的である自然と人間の共生の為に、無理をせずに参加し続けられたら思ております。

早春の山野草をたずねる会兼総会

国宝「白山神社」にて

(総会次第)

開会

閉会

議長及び議事録署名人選任

議事

平成17年度事業報告書
(含むかしのみ第20号)

2号議案
・平成17年度特定非営利活動に係る会計収支計算書

3号議案
役員等承認の件

4号議案
平成18年度事業計画(案)

5号議案
活動に係る会計収支計算書(案)

6号議案
その他(報告等)

7号議案
①研修と今後
②助成申請(環境教育実践指導者研修・八方台植樹)
閉会



総会

春のひと時

金井 富子

春の山野草の会には参加する機会が何回かありました。

春初めての芽吹きと、新緑の山道を、先生のお話しをお聞きしながらの散策は楽しく、足元に生えている草花にも名前があり私が聞いても、右から左で、なかなか覚えられませんが、会員の方々の知識の豊かさにはいつも関心しております。

植物の生態が木によつて違つたり、冬の厳しさや、雪の重みで曲がった木が大きく成長し、樹木の下に生えている草木に相性があつたり、植物の中には、食用になるものも数多

くあり、珍しい山菜を食べる時には、口の中で味わつた事のない『ハーモニー』になり、又、大勢の人達との昼食は格別の味がします。

いつも準備をして下さる皆様方のお陰です。本当に感謝しております。

機関紙『かしのみ』の名称は、会員一人一人が、樺の実として育ち、のちに樺の木のようにすばらしい森ができますように、そして自然を守り、自然に生きる事の大切さを学んで欲しいが認められています。

自然を守り、自然に生きる事の大切さを学んで欲しいが認められていくのではないでしようか。

今、木を植えて、森づくりをする運動が広がっています。私達の会も会員の輪が益々広がり、楽しい会がいつまでも続きますよう願っております。



理事長による森の説明

ジャズへの「黄色」シンナー
キャラペーンに参加した

渡邊

三

今年は、七月と九月の二回、理事長と勝沼会員と私の三人で活動をした。(レシートで還元される金額云々よりこんな活動をしている団体があるということを、より多くの人に知つて貰うPRの良い機会)と話す理事長の意を体し、山野草の会の旗を立て、机上にパンフレットを用意して活動を開始する。ジャスコが設置した団体名が書かれた小箱の前、入口付近とレジ付近の二手に分かれ、客に声掛けをする。

七月には自由だつた活動時間も、九月では決められ、更に店員も私共と一緒にタスキをかけ、店内放送で度々呼びかけるなど協同態勢が一層整つてきた。声掛けする度レシートが徐々にふえていく嬉しさは格別である。

小さな呼びかけが、より多くの人の理解を得て広がっていく、貴重な機会であるということを実感した。

ジャスコが、社会奉仕の一環として行う黄色いレシートキャンペーンは、毎月十一日に限り、ジャスコで買物した客に黄色いレシートを発行するところから始まる。このレシートをヤンペーンに参加する登録団体が集め、ジャスコに提出するとその金額総計の一%が、団体の活動資金として提供されるというものである。登録団体は、我が植生研究会を始め、骨髄バンクや身体障害などその数は十六に及んでい

『いのちの森再生』—蒼紫の森 育樹・植樹—



去る七月九日、小雨が

去る七月九日、小雨が
ぱらつく中、五年間続いた植樹を終え、昨年に続き二回目の育樹作業が行
われました。

アオサギやゴイサギが二月下旬から六月頃まで繁殖のための営巣を行い、昭和六十一
年頃には、二千二百余りの巣が確認されていたようです。

この為、社叢林では枯木が多くなり、私たちのふるさとの森づくりのきつかけとなつたと聞いています。



首創終了後

江 口 道 雄	中 村 ヨ キ	" 井利子	海 谷 繁 雄	鈴 木 啓 子	小 林 愛 子	" 芳 子	高 橋 龍 雄	" 紀 子	田 中 貞 夫	" 久 子	砂 山 広 鷹	西 脇 恵 美 子	島 津 惠 子	丸 山 洋 子	長 谷 川 禮 子	中 村 ク 二	林 米 子	お 名 前	住 所
才津南町	関原町一丁目	"	寺泊上田町	西千手二丁目	川崎	"	上除町	"	希望ヶ丘南五丁目	"	才津西町	"	千手三丁目	豊詰町	出雲崎川西	川崎五丁目	上除西一丁目		

କୁଳାଳ

新入会員名簿

希望の森づくり

上越市立名立中学校 竹内 慎治

「本物の森をつくりたい」そして、「子どもたちにも森づくりの大切さを伝えたい」このような思いを強めたのは、宮脇昭さんの著書を読み、潜在自然植生の考え方ふれてからである。

当校のグランドの北側には、防風林としてマツの木があつたが、枯れてしまっていた。また、校庭の周辺は急な土手になつており、管理員が毎年除草に苦労していた。宮脇さんの理論に基づいて森をつくれば、防風の役目を果たし、また、除草の作業からも解放されるのではないかと考えた。教頭、そして新任の校長や管理員もこの考えには共感し、今年度の四月から当校の「希望の森づくり」が始まつた。

四月には小日向孝理事長による「命の森づくり」の講演会。五月には、地域の裏山からの実生採取・育苗。七月にはモリアオガエルの保護を目的とした池の造成。そして、九月には植樹活動。潜在自然植生に基づいて選んだ三百八十四本の苗木を、全校生徒と



名立中学校植樹

共に植えることができた。来年は、池の周辺への植樹。そして、創立三十周年を迎える平成二十年には、校門の土手への植樹を計画している。まだ、計画は立ち上がりましたが、ばかりですが、早速、県の環境賞までいたとき、「希望の森づくり」への意欲が高まりました。小日向孝理事長を初めとして、「山野草をたずねる会・植生研究会」の方々には大変感謝しております。今後とも、ご指導よろしくお願ひいたします。

前日まで、大雨だつたそうで、山道は至る所、道が川の様になつていました。当日は、幸にも雨も上り、草木が生き生きとし、緑色をさらに色こくし、私達を爽やかな気持ちで迎え入れてくれました。観察班は三班に別れ、私は頂上までのウォーキング班で、出発しました。女性で一番若い渡辺さんを先頭に十三名、千手の中川定一さん八十三才の長老も一緒に、頂上を目指しました。列の最後は若い男性野本さんが、私達を見守りながらリーダー

皆さんのが色々な知識の持主なには驚かされました。共通の趣味を持つ人達と一緒に旅が出来る喜びを噛み締めました。

三日、長野方面で、妻籠、水木沢天然林、上高地、松本方面工コツア。私の一番印象に残つたのは、水木沢原生林でした。水木沢は、標高一三〇〇M、各種のカエデ、木曽の五木と言われるヒノキ、サワラ、アスナロ、コウヤマキ、クロベとさらにカラマツ等が生育する原生林と言うことです。私は樹木のことは良く知らないのですが、先生始め、皆さんが色々な知識の持主なには驚かされました。共通の趣味を持つ人達と一緒に旅が出来る喜びを噛み締めました。



松本城にて

夏の合宿 長野の旅

西脇 恵美子

自然の恵み、人の温かさに感動した合宿研修

長谷川 権子

自然の恵み、人の温かさに感動した合宿研修

山野草をたずねる会に誘われて、今年から会員の仲間に入れて頂きました。

私は、草花や自然が大好きで、花の手入れをしている時は、時間を忘れてします。

今年の合宿研修の旅は、七月二十二日と二十三日、長野方面で、妻籠、水

木沢天然林、上高地、松本方面工コツア。私の一番印象に残つたのは、水木沢原生林でした。水木沢は、標高一三〇〇M、各種のカエデ、木曽の五木と言われるヒノキ、サワラ、アスナロ、コウヤマキ、クロベとさらにカラマツ等が生育する原生林と言ふことです。私は樹木のことは良く知らず、すぐ目の前の小枝から小枝へと飛び交ううぐいすに出会えた野麦峠、澄みきつた水の流れに心洗われた上高地、行く先々で自然の恵みをいっぱいに感じることができます。

会員皆様との初めての出会いが七月末に行われた長野方面への合宿研修でした。古木

が生い繁つた水木沢の天然林、薄ピンク色のひめ小百合や

「ホーホケキョ。」と鳴きながら、すぐ目の前の小枝から小枝へと飛び交ううぐいすに出

会えた野麦峠、澄みきつた水の流れに心洗われた上高地、行く先々で自然の恵みをいっぱいに感じることができます。



2006年合宿研修

—長野の旅—

自然に親しみ生命の森との共生を考える



ヤチトリカブト



大正池

1日目 7月22日(土) —

長岡駅東口集合—中津川IC—馬籠—水木沢天然林—野麦峠—奈川温泉（野麦荘）

長岡を出発する折、目的地は台風の影響で各所通行止めとの情報。でも無事目的地まで行く事ができ、因果応報（理事長談）と会員一同胸を撫で下ろす。目的地「水木沢天然林・原始の森」コースでは木曽五木の一つ樹齢550年の大サワラやネズコの大木に会員は2～3人がかりで抱くなど、森林の中千年の歳月を経て、腐葉土は暖かくまた優しく我々を迎えていたかのように思う。

2日目 7月23日(日) —

旅館発—沢渡（シャトルバスに乗り換える）—大正池—河童橋（散策）—沢渡—松本城—小布施PA—長岡駅東口解散

早朝の大正池は雨上がりで清々しく、河童橋までの散策では、雄大な自然に浸り心が癒された。美しい長野を満喫した。

松本城見学後無事長岡へ。総勢30名はそれぞれ家路へと急がれた。

7 / 22 ~ 23 梅雨末期の豪雨の間隙を縫つて、つかの間の晴天に恵まれたバスツアーでした。

今回の研修テーマは『自然に親しみ生命の森との共生を考える』と『大自然に浸り心を癒し健康度を高めましょう』という学びの旅でした。

水木沢天然林・原始の森・太古の森回遊コースを散策し、1週間前まで毎日100ミリ以上の降雨量が続き、さぞ山道は泥んこで長靴が必要だらうとバスの中に持参してきましたが、それも使わず天然森林のスポンジのような大地を歩き太古の森の保水力に驚嘆いたしました。

今回は日本列島のど真ん中、馬籠・妻籠・野麦峠・奈川温泉・上高地（大正池散策）等の森林浴を思う存分堪能しました。

私は植生学のイロハも理解しようとしない無知の会員ですが、ヒノキとブナの樹種だけは見分けられるようになりました。

入会時に故郷に縁をという崇高な会に惚れ、自分もそういう仲間と旅をして琴線に触れてみたいという希望があり、会員の皆様と早く知人→友人→仲間になるよう段階を踏んで努力したいと思います。

先日のテレビで聞いた言葉で『生きるとは生かされていること、家族や友人や大自然に…』を実感した研修旅行でした。

「学びの旅合宿研修」に参加して

鎌倉市在住 金井 正典

千年の森—みんなでつくるふるさとの森

一いのちの森再生八方台育樹・植樹一



植樹準備—苗木確認と名札付け



植樹位置付け作業



森民夫市長の植樹



協力団体・会員の記念写真

総開会式	9 : 30
①開会	(1)開会
②開会の挨拶	(2)開会の挨拶
③激励と挨拶	(3)激励と挨拶
④激励と挨拶者以外の	
⑤長岡市觀光課	(4)
⑥長岡市議會議員	①長岡市長
⑦長岡市議會議員	②新潟県議會議員
⑧長岡市議會議員	③東北電力株式会社長岡
⑨株式会社山崎組社長	④N P O 法人献血友の会
⑩トヤマ写真製版所社長	⑤植樹説明
⑪看板紹介	(6)
2 植樹	10 : 00
3 青空シンボジウム	11
（いのちの森づくりや緑	

開会式 9 : 30

副理事長 金子久信

阿部 隆夫様
大地 正幸様
当会顧問 佐藤 守様
森 民夫様
松川 キヌヨ様
務課長 石井 菊池 小熊 関 謙様
高野 笠井 裕紀様
高田 正志様
外山 正義様
由夫様 則雄様
裕司様



植樹完了全景

八方台の風景に、東山の尾根で輝く八方台休暇センターの建物が、私には欠かせないものだつた。昭和三十七年に誕生したセンターは、その役目を果し終え、平成十四年に取り壊された。跡が寒々としていた。

センターの跡に、その自然に合う木を植えて、千年の後の世界に生き続ける森をつくろうではないか。それを山野草をたずねる会が中心になつてやろうではないか。話は平成十三年の暮に出てきた。主役をブナがする。脇役も端役もある。それらの苗木を宮脇昭先生・

「八方台植樹」に參加して

小笠原 文夫

「八方台植樹」に参加して

レンドつづじに願ごをひめて
中村 クニ

中村
クニ

何年ぶりかで八方台を尋ねることができました。子供たちが小さかつたころ、おにぎりを持つて何度か登つたこの八方台に、「山野草をたずねる会」の皆さんとの仲間入りをさせていただき、六百本あまりの苗木を植える活動に参加させていただくことができました。

八方台への道の両側には、ススキも、もみじも、栗の木も、秋を迎えており、当時のことが思い出されました。

いろいろの苗木の中から、思い出のある、レンゲつつじを植えさせていただきました。
苗木が大きく育つことは、どんなにか楽しみなのに。

私は、
『どうぞ、この苗が小さいうちに、三奈子が戻ってきてくれますように：そして、いつしょに、この苗木を育てて行こうね。』と、願いをこめて植えました。

寒い冬に耐え、どうぞ春を迎えるにこぎりと地に根を張つて、大きく育つてほしい。

小日向理事長の脚本に従つて割り振れば、二、三十年でしつかりした森になるというのだ。すばらしい。だが、一年や二年で終る仕事ではあるまい。資金はどうするのだ。

「八方台植樹」を始めてから五年になる。今年は、百人をこえる人が集つて、四十二種、六二十四本の苗木を植えた。会もがんばつていがるが、協賛団体や後援団体をはじめ、多くの方々のお陰である。

私は、今までに私が植えた苗木の将来を知らない。しかし、森の将来は、はつきり分る。隣の真木にあるようなブナの森になつて、八方台の風に欠かせないものになつてゐる。

平成18年度活動報告

特定非営利活動法人(NPO法人)
新潟県山野草をたずねる会・植生研究会

★テーマ 植物の生きざまに学ぶ

◎足元の自然環境に学ぶ

- ・植生生態学的な自然の理解と認識を深める自然観察・調査・視察及び研修活動
(エコロジカルとビオトープ自然観の確立)

◎本物の緑環境の保護保全回復活動を通していのちと心を育む—(生やし・育て・植える)

- ・潜在自然植生構成種の実生育成活動(ドングリ育苗) —10万本育成を目指す
- ・250年のいのちと心を植えるふるさとの森(いのちの森) の植樹・再生活動
(持続可能な環境の再生と共生、自然と調和するまちづくり)

◎自然に親しみ健康で人間性豊かな生活の追求

- ・森や自然の恵みと心の癒しの体験と健康の維持増進する活動
- ・会員の親和向上を図る活動

◎関係団体との協力連携、支援、交流活動と協力団体・企業(東北電力長岡営業所・長岡法人会等)の確保

◎広報・研修活動一機関紙(かしのみ)等の発行・調査・講演会等の開催

◎理念の具現と特定非営利活動に係わる事業の継続性、信用信頼性、資金確保と深化充実

1 環境教育の推進に関する事業

(1) 早春の山野草を訪ねる会兼総会 ★レンタカー使用

・期日 4月2日(日) (82名(委任55名)) ・方面 能生・西山

(2) 春の野を歩き山菜を食べる会 ★レンタカー使用

・期日 5月28日(日) (21名) ・方面 下田

(3) 秋の野に学ぶ(キノコの識別・ドングリ拾い・観察会) ★レンタカー使用

・期日 10月8日(日) (25名) ・方面 津南

(4) 合宿研修兼観察会(エコツアーア) ★レンタカー使用

・期日 7月22日(土) ~23日(日) (30名) ・方面 長野

(5) 環境保全といのちと心の教育を推進する『環境教育実践指導者研修会』

・助成団体—こじ水と緑の会・協力後援団体—NPO法人新潟県環境カウンセラー協会(共催)・(社)社会教育協会

・長岡市・里山ぬか山会・長岡市子供会他 ★期日(6/11、28名)(7/17、36名)(10/8、25名)(10/9、27名)の4回

2 自然環境保全及び緑化推進・地球温暖化防止に関する事業

(1) みどりを育てる会—潜在自然植生が生育する本物も緑環境のまちづくり『ふるさとの木によるふるさとの森』—『いのちと心』を植える未来を育むいのちの森づくり(育苗・育樹・植樹)

① ドングリハウス管理定例日・自然観察会兼ねる

・4月25日(火) 4名・5月21日(日) 6名・6月11日(日)・7月9日(日) 10名・8月5日(土) 6名・9月9日(土) 10名

・10月28日(土) 八方台16名・11月12日(日) 19名・12月16日(土) 冬囲い(シートかけ)

② 植樹播種—ハウス管理日と併設し、自然観察会と同日展開を原則とする。

(2) いのちの森再生=ふるさとの森再生

① 苍紫の森—悠久山公園・苍紫神社叢林

育樹 7月9日(日) (10名)

② 千年の森—みんなでつくるふるさとの森八方台植樹

ア 植樹 10月29日(日) ・市民運動・協力—長岡市(長岡市観光課) (105名)

イ 育樹

★助成申請—日本財団・セブンイレブン・県職員互助会(助成)・緑百年(助成)・国土緑化推進機構

★協賛—長岡法人会、東北電力他

③ 中越環境開発補植 4月29日(土) 12名

3 生活環境の保全と改善に関する事業

① 自然の恵み体験と食用薬用健康茶に関する研修—各事業の中で行う。

② 学び合う会・期日 12月9日(土) ・場所 長岡市内(日栄分店)

・内容一・山野草を語り活動を反省する会(忘年会、総会)

・講演及び各種成果の発表(写真・俳句・詩・キノコ・環境・生態ビデオ他)

③ 研修講演会 ・期日 12月9日(土) 日栄分店

4 付帯する一切の事業 一関係団体との協働活動含む

① 湯沢みどりの会交流植樹

② にいがた緑の百年物語関係

③ 関原里山ぬか山会 ・5月21日(日) 6名、交流・懇親会11月12日(日) 19名

④ 市環境フェア ・9月23日(土) 24日(日) 16名

⑤ 献血友の会街頭協力、街頭募金活動・ジャスコ黄色レシートキャンペーン各月11日(15名)

⑥ 市民活動まつり ・11月1~8日

⑦ 機関紙発行・第21号・期日12月9日(土) ・内容(活動のあしかと、感想など)



ドングリハウス「学びの森育樹園」のスイレン

今年度初めて取組んだ「環境教育実践指導者研修会」は四日間という長丁場でありましたが延べ人数は116名と多く最後の修了書を手にされ、熱心に受講された方々は今後「環境教育の推進」に寄与されることと思われます。年々私達の活動を理解し、多くの企業や個人の方々からご支援とご賛同を頂き、NPO法人として二年目を終了することができました。又、今回も「かしのみ」の原稿依頼を快く引き受け下さり沢山の原稿が寄せられたことに編集員一同感謝致しました。(金子、小林、渡辺)

編集後記